

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3146260号
(U3146260)

(45) 発行日 平成20年11月6日 (2008. 11. 6)

(24) 登録日 平成20年10月15日 (2008. 10. 15)

(51) Int.Cl.
A 4 5 C 3/04 (2006. 01)

F I
A 4 5 C 3/04 A

評価書の請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 7 頁)

(21) 出願番号	実願2008-6093 (U2008-6093)	(73) 実用新案権者	593071535
(22) 出願日	平成20年8月29日 (2008. 8. 29)		株式会社スーパープランニング
		(74) 代理人	100080090
			弁理士 岩堀 邦男
		(72) 考案者	神谷 敬久
			静岡県浜松市瓜内町 1 9 3 7 株式会社スー パープランニング内

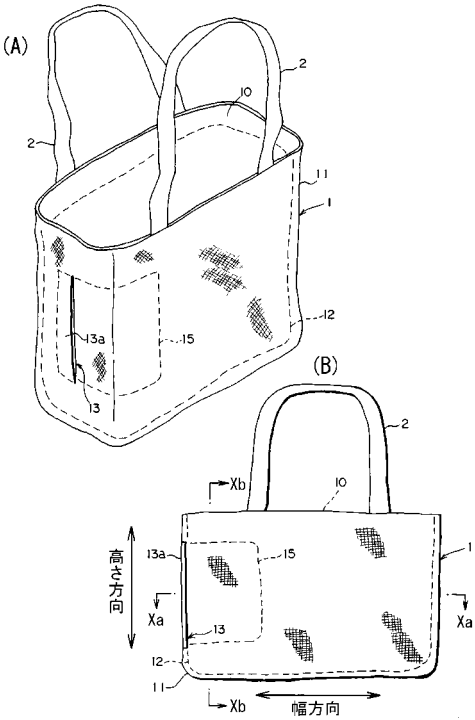
(54) 【考案の名称】 携帯バッグ

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 通常のバッグとして使用しているときには、小型収納袋部があまり目立つことなく、しかもバッグとして非使用時には、収納袋にバッグ本体を収納し易く、且つ収納時には極めてコンパクトな状態にすることができる携帯バッグとすること。

【解決手段】 第1袋部11内に該第1袋部11と略同等形状とした第2袋部12が配置されると共に前記第1袋部11と前記第2袋部12の開口周縁のみにて縫合されてなるバッグ本体1と、該バッグ本体1の幅方向一端側で、且つ高さ方向に沿って形成された収納口部13と、前記第1袋部11と前記第2袋部12との間に配置されると共に前記収納口部13に連通された小型収納袋部15とからなること。該小型収納袋部15は、前記収納口部13から前記バッグ本体1に対して出し入れ自在となる。

【選択図】 図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

第 1 袋部内に該第 1 袋部と略同等形状とした第 2 袋部が配置されると共に前記第 1 袋部と前記第 2 袋部の開口周縁のみにて縫合されてなるバッグ本体と、該バッグ本体の幅方向一端側で、且つ高さ方向に沿って形成された収納口部と、前記第 1 袋部と前記第 2 袋部との間に配置されると共に前記収納口部に連通された小型収納袋部とからなり、該小型収納袋部は、前記収納口部から前記バッグ本体 1 に対して出し入れ自在としてなることを特徴とする携帯バッグ。

【請求項 2】

請求項 1 において、前記バッグ本体の外側と内側との折り返しにより、前記第 1 袋部と第 2 袋部の一方は前記バッグ本体の外側部分とし、他方は内側部分として使用可能となることを特徴とする携帯バッグ。

10

【請求項 3】

請求項 1 又は 2 において、前記収納口部には、ジップが装着され、該ジップには前記収納口部の内方側と外方側に位置する 2 つのつまみ部を有してなることを特徴とする携帯バッグ。

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、通常のバッグとして使用しているときには、小型収納袋部があまり目立つことなく、しかもバッグとして非使用時では、収納袋にバッグ本体を収納し易く、且つ収納時では極めてコンパクトな状態にすることができる携帯バッグに関する。

20

【背景技術】

【0002】

従来、携帯バッグが使用されているが、その多くのものでは折畳みバッグと、この折畳みバッグを収納するための小型の収納ケースとから構成されたものがほとんどである。このようなものとして、たとえば特許文献 1 に開示されているように、折畳みバッグ部は、適当に折り畳み、この折り畳んだ状態で小型の収納ケースに収納するものである。

【特許文献 1】実用新案登録第 3095333 号

【考案の開示】

30

【考案が解決しようとする課題】

【0003】

上記の携帯バッグでは、通常のバッグとして使用しているときには、収納ケースは、全くの不要な物となり、有効な利用がなされていないばかりか、かえって使用者にとって無駄な部分となり、バッグに物を収容するためのスペースを有効に利用することができなかつたり、また収容された物は、前記収納ケースの押し付け状態により負担がかかることになることもあり得る。

【0004】

さらに、収納ケースは、非使用時において不要なものとなっているにもかかわらず、かなり目立つものとなる。本考案が解決しようとする課題（技術的課題又は目的）は、通常のバッグとして使用しているときには、小型収納袋部があまり目立つことなく、しかもバッグとして非使用時では、収納袋にバッグ本体を収納し易く、且つ収納時では極めてコンパクトな状態にすることができるようにすることにある。

40

【課題を解決するための手段】

【0005】

そこで、考案者は、上記課題を解決すべく、鋭意、研究を行った結果、請求項 1 の考案を、第 1 袋部内に該第 1 袋部と略同等形状とした第 2 袋部が配置されると共に前記第 1 袋部と前記第 2 袋部の開口周縁のみにて縫合されてなるバッグ本体と、該バッグ本体の幅方向一端側で、且つ高さ方向に沿って形成された収納口部と、前記第 1 袋部と前記第 2 袋部との間に配置されると共に前記収納口部に連通された小型収納袋部とからなり、該小型収

50

納袋部は、前記収納口部から前記バッグ本体 1 に対して出し入れ自在としてなる携帯バッグとしたことにより上記課題を解決した。

【0006】

請求項 2 の考案を、前述の構成において、前記バッグ本体の外側と内側との折り返しにより、前記第 1 袋部と第 2 袋部の一方は前記バッグ本体の外側部分とし、他方は内側部分として使用可能としてなる携帯バッグとしたことにより上記課題を解決した。請求項 3 の考案を、前述の構成において、前記収納口部には、ジッパが装着され、該ジッパには前記収納口部の内方側と外方側に位置する 2 つのつまみ部を有してなる携帯バッグとしたことにより上記課題を解決した。

【考案の効果】

10

【0007】

請求項 1 の考案では、収納口がバッグ本体の幅方向一端側において上下方向に沿って形成されたものであり、本考案が通常のバッグとして使用されているときには、収納袋はバッグ本体に対して目立ちにくいものであり、バッグをシンプルなデザインとする場合には極めて好適なものである。また、前述したように、収納袋の収納口がバッグ本体の幅方向一端側に位置しているので、バッグの開口より物の出し入れを行うときには、極めて円滑にできるものである。

【0008】

請求項 2 の考案では、リバーシブルタイプのバッグとして使用することができるものである。この場合、特に前記第 1 袋部と第 2 袋部とを折り返して使用された場合には、折り返し前にはバッグ本体の外側に位置していた前記収納口は、折り返し後は、バッグ本体の内方側の幅方向一端側に位置することになり、前記収納口は、より一層目立ちにくい状態にすることができる。

20

【0009】

請求項 3 の考案では、前記収納口には、ジッパが装着されたことで、前記収納口をきちんと閉じることができ、収納口をより一層目立ちにくくすることができる。さらに、前記ジッパは、前記収納口の内部側と外部側に位置する 2 つのつまみ部を有した構成としたことで、通常のバッグとして使用したときには、収納口の外部側に位置するつまみ部によって、前記収納口の開閉を容易にできるし、バッグ本体を収納袋に収納した状態では、収納袋が引っくり返された状態となり、前記収納口は内部と外部が引っくり返り、バッグとして通常に使用されているときに内部側のつまみ部が外部に露出して、容易に収納口を開閉することができる。

30

【考案を実施するための最良の形態】

【0010】

以下、本考案の実施形態を図面に基づいて説明する。本考案は、図 1、図 2 等に示すように、バッグ本体 1 及び手提げ部 2 とから構成され、さらにバッグ本体 1 は、図 2 (A)、(B) に示すように、第 1 袋部 11、第 2 袋部 12 とから構成される。前記第 1 袋部 11 及び前記第 2 袋部 12 は、通常は、扁平状の袋形状をなしており、前記第 1 袋部 11 及び第 2 袋部 12 は共に、その外形が長方形或いは正方形等の方形状に形成されている〔図 1 (B) 参照〕。また、前記第 1 袋部 11 及び第 2 袋部 12 は、立体状にすると、略直方体状又は略立方体状となる〔図 1 (A) 参照〕。

40

【0011】

手提げ部 2 は、肩に掛けるのに適正なループ状をなしており、肩に掛けることや手に持つことが容易にできるものである。具体的には、その手提げ部 2 は、バッグ本体 1 に対して対向する側面部にそれぞれ装着されており、前記バッグ本体部 1 の上方に略逆 U 字形状に設けられている (図 1 参照)。

【0012】

前記第 1 袋部 11 と第 2 袋部 12 とは、略同一形状且つ同一サイズである。前記第 1 袋部 11 の内部に前記第 2 袋部 12 が配置され、前記第 1 袋部 11 と前記第 2 袋部 12 のそれぞれの開口周縁同士が縫合されており〔図 2 (B)、(C) 参照〕、その他の部分では

50

、接合された箇所は存在しないものである〔図 2（B）参照〕。これによって、前記第 1 袋部 1 1 と前記第 2 袋部 1 2 との間には十分に余裕のあるスペースを得ることができる。前記第 1 袋部 1 1 及び前記第 2 袋部 1 2 の生地は、布地、革、化学（合成樹脂）繊維、紙等で、その他にゴム材等である。さらに、可能であればアルミ等の柔軟且つ薄く変形容易な金属素材を使用することも可能である。

【0013】

その第 1 袋部 1 1 と第 2 袋部 1 2 とは、上述した素材からなるが、それぞれ異なる素材から形成されたり、或いは同一素材であっても色、柄等を異なるようにしたものである。たとえば、第 1 袋部 1 1 が布製で、第 2 袋部 1 2 は革製としてもよい。すなわち、第 1 袋部 1 1 と第 2 袋部 1 2 とは、材質或いは色彩等で種々の組み合わせとなるように、それぞれ異なるパターンとすることによって、リバーシブル構成のバッグとする場合にはより一層好ましいものにできる。

【0014】

前述したように、前記バッグ本体 1 は、第 1 袋部 1 1 と第 2 袋部 1 2 とから構成され、通常は、第 1 袋部 1 1 を前記バッグ本体 1 の外側部分を構成するものとし、第 2 袋部 1 2 を前記バッグ本体 1 の内側部分を構成するものとする〔図 2（A）、（B）参照〕。そして、前記バッグ本体 1 を適宜に外側部分と内側部分とを折り返す（すなわち裏返す）ことで、前記第 1 袋部 1 1 がバッグ本体 1 の内側部分となり、前記第 2 袋部 1 2 がバッグ本体 1 の外側部分とすることができる。

【0015】

前記第 1 袋部 1 1 と、前記第 2 袋部 1 2 とから構成されたバッグ本体 1 には、図 1（A）、図 2（B）等に示すように、上部側を開口とした主出入れ口 1 0 が設けられており、本考案が通常のバッグとして使用される場合には、該主出入れ口 1 0 を収容物の出し入れを行うための主要な部位となる。

【0016】

前記バッグ本体 1 には、図 1 に示すように、主出入れ口 1 0 とは、別の位置に収納口部 1 3 が設けられている。該収納口部 1 3 は、図 1（B）に示すように、前記第 1 袋部 1 1 の幅方向端部の側面又は折り返し部分で、且つ前記第 1 袋部 1 1 の高さ方向に沿って形成されたものである。前記収納口部 1 3 は、第 1 袋部 1 1 又は第 2 袋部 1 2 のいずれか一方側に設けられるものであり、本考案を実施する場合には、前記収納口部 1 3 は、前記第 1 袋部 1 1 又は前記第 2 袋部 1 2 のいずれであってもかまわない。

【0017】

本考案の実施形態では、前記第 1 袋部 1 1 側に形成されるものとして説明する。ここで、前記第 1 袋部 1 1 の幅方向とは、バッグ本体 1 を略扁平状にして、略シート状にした状態において、その正面形状が略長形状とした場合における横方向のことであり、第 1 袋部 1 1 の高さ方向とは、前述の状態において、縦方向のことである〔図 1（B）参照〕。そして、その幅方向両端は、前記第 1 袋部 1 1 及び第 2 袋部 1 2 のそれぞれの折り返し部分となる。また、この折り返し部分は、バッグ本体 1 を略立体状に設置した状態では、該バッグ本体 1 の幅方向端部における側面部分となる〔図 1（A）参照〕。

【0018】

前記収納口部 1 3 は、図 3（A）、図 4 に示すように、ジッパ 1 4 が装着されている。該ジッパ 1 4 は、合成樹脂製又は金属製のものが使用される。前記収納口部 1 3 には、ジッパ 1 4 を隠すカバー片 1 3 a が設けられている〔図 1、図 3、図 4（A）参照〕。該カバー片 1 3 a は、前記第 1 袋部 1 1 の生地の一部が使用されて、略長形状に縫製仕上げされた帯片状のものであり、前記ジッパ 1 4 の覆いとして形成されたものである（図 3 参照）。

【0019】

該ジッパ 1 4 は、テープ 1 4 a、歯（エレメント）1 4 b 及びスライダ 1 4 c から構成され、該スライダ 1 4 c には、2 個のつまみ部 1 4 d、1 4 d が具備されている。すなわち、前記バッグ本体 1 の収納口部 1 3 において外方側と内方側の両方の側にそれぞれ 1 個

10

20

30

40

50

ずつ配置された状態となっている〔図 3（A）参照〕。前記ジッパ 1 4 のテープ 1 4 a の表面側は、前記収納口部 1 3 の開口周縁部分における第 1 袋部 1 1 の生地が縫い付けられている。

【0020】

さらに、前記テープ 1 4 a の内面側には、後述する小型収納袋部 1 5 の開口周縁が縫い付けられる〔図 3（A）参照〕。すなわち、前記ジッパ 1 4 のテープ 1 4 a の一方の面（表面）には第 1 袋部 1 1 側の生地が縫い付けられて収納口部 1 3 を形成しており、前記テープ 1 4 a の他方の面（内面）には前記小型収納袋部 1 5 の生地が縫い付けられている〔図 3（A）参照〕。また、特に図示しないが、前記ジッパ 1 4 の代わりに、ループ及びフック状の起毛状の布タイプのファスナが使用されてもかまわない。さらに、図示しないが、前記収納口部 1 3 には、ジッパ 1 4 又は布タイプのファスナ等が装着されないこともある。

10

【0021】

前記小型収納袋部 1 5 は、扁平状態で長方形又は正方形等の略形状に形成されたものであり、前記第 1 袋部 1 1 又は第 2 袋部 1 2 よりも、さらに小形に形成されたものであり、前記第 1 袋部 1 1 と第 2 袋部 1 2 との間に収まっており、収まり状態は、扁平状に折り畳まれた状態となる。前記小型収納袋部 1 5 は、前記第 1 袋部 1 1 及び第 2 袋部 1 2 が圧縮されて、くしゃくしゃの塊状態としたものが詰め込まれるに足る容積を有している（図 5，図 6 参照）。

【0022】

20

前記小型収納袋部 1 5 は、図 4（B），図 5 及び図 6 に示すように、前記収納口部 1 3 から前記バッグ本体 1（の第 1 袋部 1 1）から引き出すことができるし、引き出した小型収納袋部 1 5 は、再度収納口部 1 3 から元の位置に戻すことが容易にできる。前述したように、前記ジッパ 1 4 のスライダ 1 4 c には、2 つのつまみ部 1 4 d，1 4 d が具備されており、一方のつまみ部 1 4 d は収納口部 1 3 からバッグ本体 1 の外部に位置している。

【0023】

また、他方のつまみ部 1 4 d は、前記収納口部 1 3 よりも内方、すなわち前記小型収納袋部 1 5 の内部に位置している。そして、本考案の携帯バッグが、通常のバッグとしてではなく、非使用時における携帯品とした場合には、前記小型収納袋部 1 5 内に位置していた他方のつまみ部 1 4 d は、小型収納袋部 1 5 の外方に位置することになる〔図 5（D）参照〕。この場合には、バッグ本体 1 が収納された小型収納袋部 1 5 の開閉に前述した他方側のつまみ部 1 4 d が使用される。

30

【0024】

本考案の携帯バッグのバッグ本体 1 を小型収納袋部 1 5 に収納する過程を説明する。まず、前記バッグ本体 1 の収納口部 1 3 から小型収納袋部 1 5 を引き出す〔図 5（A），図 6（A）参照〕。ここで、後述するが該小型収納袋部 1 5 は、必ずしも引き出さなくても構わない。次に、バッグ本体 1 は、適宜に屈曲してクシャクシャ状態にして、収縮させて全体のサイズを小さくする。その収縮した状態のバッグ本体 1 を前記小型収納袋部 1 5 に押し込む〔図 5（B），図 6（B）参照〕。このとき、バッグ本体 1 をなるべく圧縮するようにして小さく収縮させることが小型収納袋部 1 5 に収納し易くするコツである。

40

【0025】

このようにして、バッグ本体 1 を小型収納袋部 1 5 に押し込むことにより、前記バッグ本体 1 は、圧縮されつつ小型収納袋部 1 5 に収納されてゆく〔図 5（C），図 6（C）参照〕。そして、前記バッグ本体 1 が小型収納袋部 1 5 に収納されたら、前記ジッパ 1 4 を介して小型収納袋部 1 5 の収納口部 1 3 を閉じる〔図 5（D），図 6（D）参照〕。

【0026】

本考案の携帯バッグをバッグの機能として使用する場合には、前記小型収納袋部 1 5 に収納されたバッグ本体 1 を引き出して広げるのみで良い。通常のバッグとして使用するときには、小型収納袋部 1 5 は、収納口部 1 3 からバッグ本体 1 の内部に収納しておく〔図 2（A）参照〕。また、前記小型収納袋部 1 5 を収納口部 1 3 から引き出すことなく、そ

50

のままバッグ本体 1 を前記収納口部 13 の裏側から押し込むようにすれば、前記小型収納袋部 15 が収納口部 13 から飛び出しつつ、小型収納袋部 15 にバッグ本体 1 が詰め込まれることになる。

【図面の簡単な説明】

【0027】

【図 1】 (A) は本考案の斜視図、(B) は本考案の正面図である。

【図 2】 (A) は図 1 (B) の X a - X a 矢視拡大端面図、(B) の図 1 (B) の X b - X b 矢視拡大端面図、(C) は (B) の (イ) 部拡大図である。

【図 3】 (A) は図 2 (B) の (ア) 部拡大図、(B) は本考案の一部切除した要部斜視図である。

【図 4】 (A) は収納口部を開いた状態の本考案の要部斜視図、(B) は収納口部を開いて小型収納袋部を外部に引き出した状態の本考案の要部斜視図である。

【図 5】 (A) は収納袋部にバッグ本体部を収納する初期状態の正面図、(B) は収納袋部にバッグ本体部を収納する途中状態の正面図、(C) は収納袋部にバッグ本体部の収納を完了する直前状態の正面図、(D) はバッグ本体部が収納袋部に収納された正面図である。

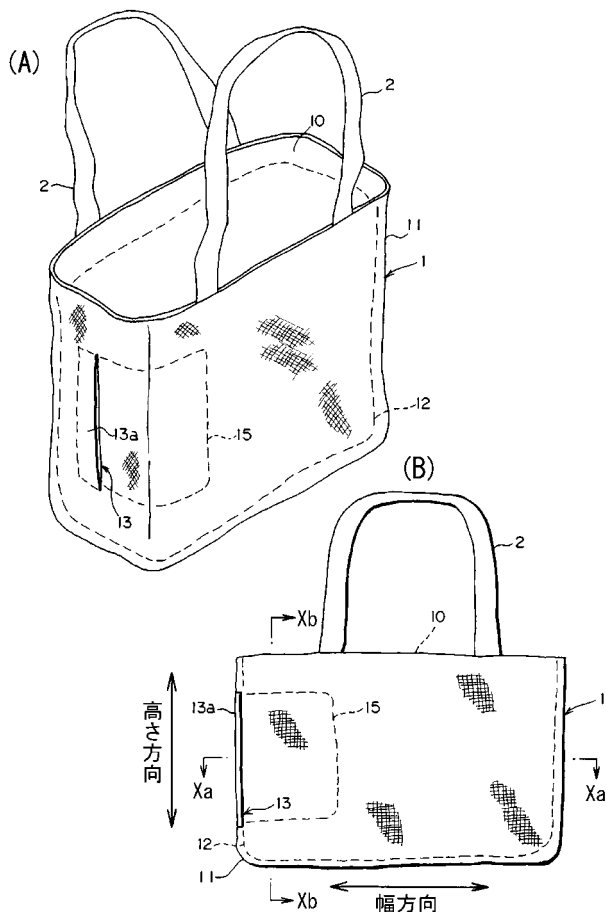
【図 6】 (A) は収納袋部にバッグ本体部を収納する初期状態の横断平面略示図、(B) は収納袋部にバッグ本体部を収納する途中状態の横断平面略示図、(C) は収納袋部にバッグ本体部の収納を完了する直前状態の横断平面略示図、(D) はバッグ本体部が収納袋部に収納された横断平面略示図である。

【符号の説明】

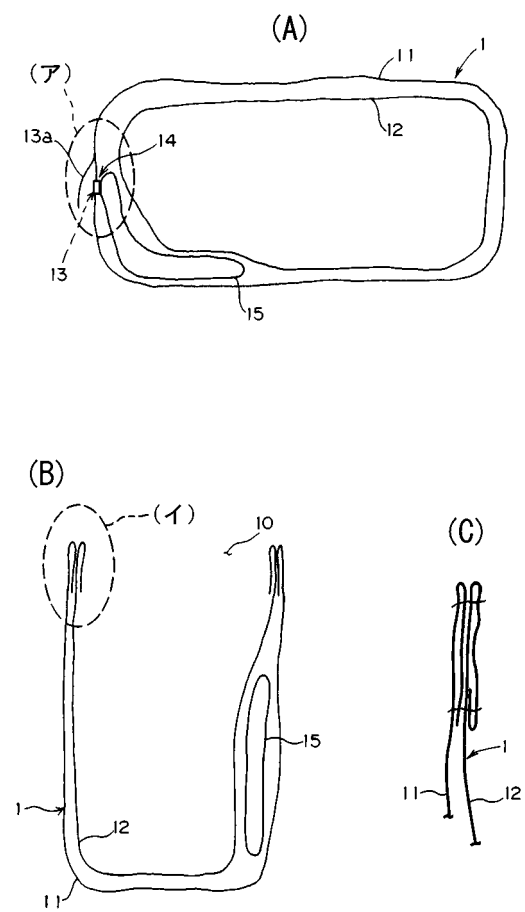
【0028】

1 … バッグ本体、11 … 第 1 袋部、12 … 第 2 袋部、13 … 収納口部、14 … ジップ、14 d … つまみ部、15 … 小型収納袋部。

【図 1】



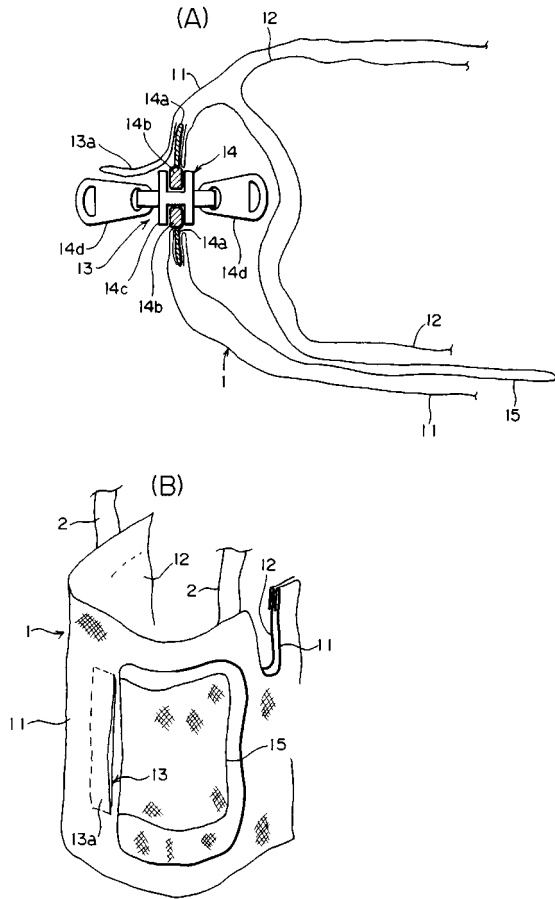
【図 2】



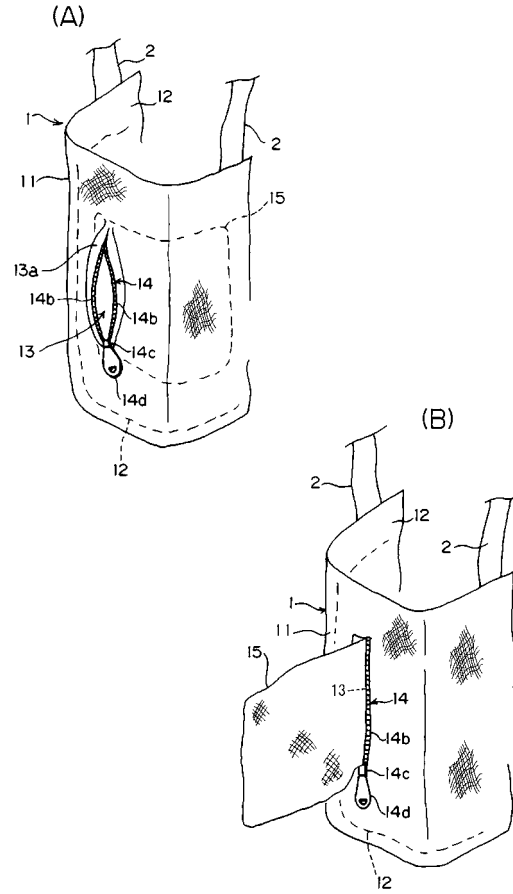
10

20

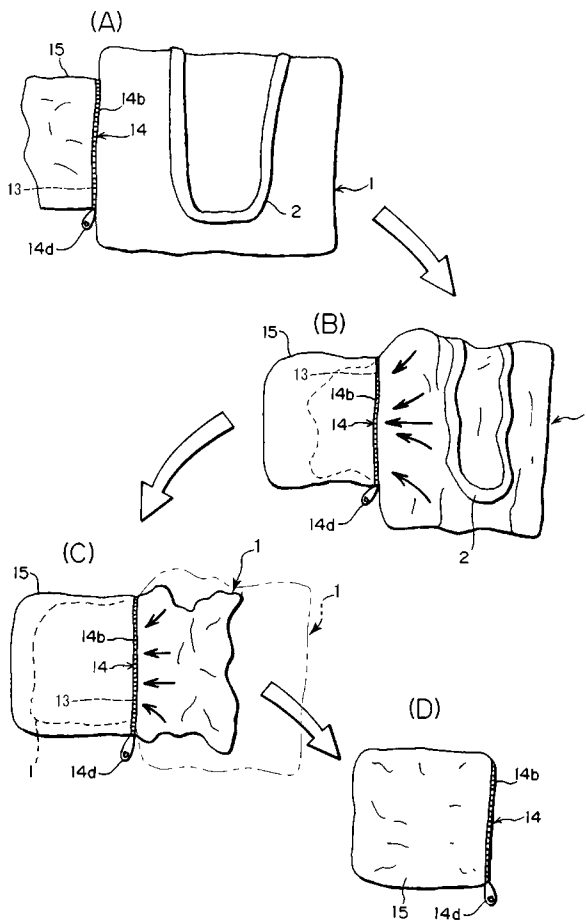
【図 3】



【図 4】



【図 5】



【図 6】

